

兵庫県立神崎工業高等学校 令和5年度 教職員自己評価

評価基準 ◎(できている) 5 / ○(どちらかというとできている) 4 / △(どちらかというとできていない) 2 / ×(できていない) 1
 《ランク A 5.00～4.00 / B 3.99～3.00 / C 2.99～2.50 / D 2.49～2.00 / E 1.99～1.00》

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	調査年度	評価結果					評点	ランク
					◎	○	△	×	未回		
学 校 運 営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	「学級通信」・「学校だより」を発行するとともに「ホームページ」や「学校安心メール」を通じて、保護者に可能な限り情報を発信する。	元	9	19	7	1	0	3.8	B
				2	11	21	4	0	0	4.1	A
				3	8	21	6	0	0	3.9	B
				4	8	15	7	1	4	3.7	B
				5	17	18	2	1	0	4.3	A
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	学校評議員会を年2回(R4年度までは年3回)開催し、評議員から意見を聴取し、授業や行事等の改善に役立てる。	元	12	20	3	1	0	4.1	A
				2	8	18	8	0	2	3.8	B
				3	11	18	5	0	1	4.0	A
				4	6	18	3	1	7	3.9	B
	5	20	15	1	2	0	4.3	A			
	学校施設や教育資源の地域への開放	社会人教育として「特別専修コース」を開設し、地域住民が学ぶ環境をつくる。	元	15	18	3	0	0	4.3	A	
			2	16	14	3	1	2	4.2	A	
			3	13	18	2	1	1	4.2	A	
			4	9	16	2	1	7	4.1	A	
			5	25	11	0	2	0	4.5	A	
学 校 運 営	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に生徒指導方針を生徒・職員に明確に説明し、定期的にその方針の達成状況を確認する。	元	13	19	2	1	1	4.2	A
				2	13	21	2	0	0	4.3	A
				3	10	19	5	0	1	4.0	A
				4	8	17	6	0	4	3.9	B
				5	15	18	5	0	0	4.1	A
		生徒の内面理解を図る指導の工夫	各学期に個人面談を実施すると共に、家庭とも密接な連絡をとる。	元	16	16	4	0	0	4.2	A
	2			12	20	2	2	0	4.1	A	
	3			10	22	2	1	0	4.1	A	
	4			11	15	3	1	5	4.1	A	
	5			17	19	1	1	0	4.3	A	
	生徒の自主自律の精神を育む指導の工夫	生徒会行事の活性を図り、生徒の自律意識を高める。	元	12	20	4	0	0	4.1	A	
			2	10	14	10	2	0	3.6	B	
			3	10	22	2	0	1	4.2	A	
			4	9	20	5	1	0	3.9	B	
	5	14	18	6	0	0	4.1	A			
いじめ行為の未然防止、早期発見への取り組み	「生活アンケート(いじめ行為含)」を毎学期実施するなど、いじめ行為の未然防止、早期発見に努めている。	元	24	12	0	0	0	4.7	A		
		2	21	15	0	0	0	4.6	A		
		3	23	12	0	0	0	4.7	A		
		4	15	19	1	0	0	4.4	A		
		5	25	13	0	0	0	4.7	A		
学 校 運 営	進路指導	進路指導体制の充実	進路指導に関する年間計画を作成し、組織的に指導する。	元	9	22	5	0	0	4.0	B
				2	16	18	2	0	0	4.3	A
				3	14	19	1	0	1	4.4	A
				4	8	13	3	2	9	3.8	B
				5	19	15	4	0	0	4.3	A
	職業観・勤労観の育成と進路意識の育成	外部講師による進路講演会を各学年で年1回開催し、生徒の職業観を高める。	元	11	22	3	0	0	4.1	A	
			2	11	23	1	1	0	4.2	A	
			3	14	18	2	0	1	4.3	A	
			4	6	12	6	0	11	3.8	B	
			5	18	17	3	0	0	4.3	A	
学 校 運 営	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	いつでも公開授業ができる体制を整える。各学期に1回以上研究授業を行う。	元	9	19	7	1	0	3.8	B
				2	10	20	5	1	0	3.9	B
				3	10	16	7	1	1	3.8	B
				4	10	18	6	1	0	3.9	B
				5	18	16	4	0	0	4.3	A
		計画性をもった研修の実施	進路・教務・保健・生徒指導等の諸課題に関する研修を計画的に立案する。	元	5	22	7	2	0	3.6	B
	2			5	28	2	1	0	3.9	B	
	3			7	21	5	0	2	3.9	B	
	4			6	17	8	4	0	3.4	B	
	5			10	21	7	0	0	3.9	B	
	情報教育の推進	ICT教育(パソコンやタブレット端末、ネットなど情報通信技術を活用した教育)の特性を活かし、タブレットを用いる授業や遠隔授業の研修、またそれらの準備・実践など計画的に行う。	元								
			2	13	18	5	0	0	4.1	A	
			3	10	18	6	1	0	3.9	B	
			4	8	18	8	1	0	3.7	B	
			5	11	22	4	1	0	4.0	A	

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	調査年度	評価結果					評点	ランク
					◎	○	△	×	未回		
学校運営	危機管理体制の整備	生徒に対する安全教育の充実	学校危機管理マニュアルに基づいて、不審者の侵入などの危機的事態への注意を喚起し、連絡の徹底を図る。	元	6	24	5	1	0	3.8	B
				2	7	21	6	1	1	3.8	B
				3	9	19	6	0	1	3.9	B
	4			6	18	10	1	0	3.5	B	
	5			10	18	9	1	0	3.7	B	
	2	9	23	5	0	0	4.0	B			
	3	4	25	5	0	1	3.8	B			
	4	8	18	9	0	0	3.7	B			
	5	12	21	4	1	0	4.0	A			
	元										
	2	14	17	4	0	1	4.2	A			
	3	12	22	1	0	0	4.3	A			
	4	8	22	5	0	0	3.9	B			
	5	11	21	5	1	0	3.9	B			
	学校運営全般	学年・学級経営	学校教育目標達成に向けた学年・学級の具体的経営方針を立て、その実施に努力する。	元	8	22	4	1	1	3.9	B
2				10	23	3	0	0	4.1	A	
3				10	23	1	1	0	4.1	A	
4				8	16	3	0	8	4.1	A	
5				9	23	5	1	0	3.9	B	
校務分掌		年度当初に、それぞれの分掌における重点目標を設定し、適宜取り組みについて評価・見直しをおこなう。	元	7	20	7	1	1	3.7	B	
			2	11	19	5	1	0	3.9	B	
			3	8	21	6	0	0	3.9	B	
			4	9	21	4	1	0	3.9	B	
			5	12	19	5	1	0	4.0	B	
PTA活動	PTAとの連携	授業参観や、人権教育研修・保健講話などにおける研修会への参加により、学校を開き、生徒理解を深める。	元	6	22	8	0	0	3.7	B	
			2	7	18	11	0	0	3.6	B	
			3	9	20	5	0	1	4.0	B	
			4	6	25	4	0	0	3.9	B	
			5	3	16	10	9	0	2.8	C	
教育課程	自らから学び考える力の育成	生涯学習の視点に立った実践能力の育成	多様な体験活動等を設定し、生徒の関心に応じた特色ある教育課程を編成する。	元	5	21	7	1	2	3.6	B
				2	9	21	6	0	0	3.9	B
				3	7	16	8	1	3	3.6	B
				4	7	19	7	2	0	3.6	B
				5	11	21	6	0	0	4.0	B
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	基礎学力テストを年5回以上実施し、生徒の学力を把握して、指導方法を工夫する。	元	12	18	5	1	0	4.0	B
				2	12	21	3	0	0	4.2	A
				3	18	16	1	0	0	4.5	A
				4	7	25	3	0	0	4.0	A
				5	16	17	5	0	0	4.2	A
		学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	校外研修会等に積極的に参加し、魅力的な授業づくりの工夫をする。	元	8	13	9	6	0	3.2	B
				2	4	13	13	6	0	2.9	C
				3	8	13	9	4	1	3.4	B
				4	9	17	8	1	0	3.7	B
				5	10	20	8	0	0	3.8	B
個に応じた指導の徹底	評価方法の創意工夫	評価方法について、教科間の意見交換や教科内の研修会を各学期に1回以上実施して、多角的な評価方法を工夫する。	元	8	16	9	3	0	3.5	B	
			2	8	18	8	2	0	3.6	B	
			3	8	16	10	0	1	3.6	B	
			4	7	22	5	1	0	3.8	B	
			5	14	15	8	1	0	3.9	B	
	指導形態の工夫	生徒の実態を把握して、個に応じた指導をおこなう。	元	15	18	2	1	0	4.2	A	
			2	16	18	2	0	0	4.3	A	
			3	14	19	1	0	1	4.4	A	
			4	13	21	1	0	0	4.3	A	
			5	19	16	3	0	0	4.3	A	
特別活動(学校行事等)	自主的・実践的な活動の活性化	部活動の活性化や、生徒会活動の積極的な運営を進める。	元	5	25	5	1	0	3.8	B	
			2	10	12	14	0	0	3.5	B	
			3	11	19	3	0	2	4.2	A	
			4	12	13	9	1	0	3.7	B	
			5	15	19	4	0	0	4.2	A	
	学校行事の精選と行事内容の充実	学校行事検討委員会を開催し、行事の精選や行事内容の充実を図る。	元	9	24	2	1	0	4.1	A	
			2	11	19	3	2	1	4.0	B	
			3	9	15	4	3	4	3.7	B	
			4	7	19	6	3	0	3.6	B	
			5	14	17	6	1	0	4.0	B	

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価結果						評点	ランク
				調査年度	◎	○	△	×	未回		
教 育 課 程	ボランティア活動		各種ボランティア活動への積極的参加を促している。	元	8	15	10	3	0	3.4	B
				2	0	12	15	9	0	2.4	D
				3	5	10	14	3	3	3.0	B
				4	3	17	13	2	0	3.2	B
				5	18	15	4	1	0	4.2	A
	芸術文化活動	文化的行事	文化祭(神工祭など)で、専門科の実習内容や文化部の発表の場を設ける。	元	16	17	2	0	1	4.3	A
				2	0	5	9	22	0	1.7	E
				3	4	10	12	6	3	2.8	C
				4	9	21	3	2	0	3.9	B
				5	15	16	6	1	0	4.0	A
	各科の個性化	(機械科) 機械技術の基礎基本の定着	資格検定試験を受験させ、学習意欲の喚起を図る。	元	11	17	5	0	3	4.0	A
				2	10	13	2	1	10	4.1	A
				3	9	18	1	0	7	4.3	A
				4	7	14	1	1	12	4.1	A
				5	20	17	1	0	0	4.5	A
			物づくりを中心とした課題に生徒の意欲関心を持たせる。	元	11	19	2	0	4	4.2	A
				2	10	13	2	1	10	4.1	A
				3	9	17	1	0	8	4.3	A
				4	8	14	1	1	11	4.1	A
				5	14	23	1	0	0	4.3	A
		総合的な技術を習得させて、応用と創造の能力を育成する。	元	7	21	3	0	5	4.0	A	
			2	10	11	3	2	10	3.9	B	
			3	9	17	2	0	7	4.2	A	
			4	7	13	3	1	11	3.9	B	
			5	14	23	1	0	0	4.3	A	
(電気科) 工業の情報化・高度化に対応した情報技術の充実	資格検定試験を受験させ、学習意欲の喚起を図る。	元	16	15	1	0	4	4.4	A		
		2	8	11	1	3	13	3.9	B		
		3	16	10	1	0	8	4.5	A		
		4	8	10	0	1	16	4.3	A		
		5	21	17	0	0	0	4.6	A		
	工業基礎・電気実習・電気基礎・情報技術基礎など、科目の指導内容の精選をおこなう。	元	6	24	1	0	5	4.1	A		
		2	7	13	1	3	12	3.8	B		
		3	13	13	1	0	8	4.4	A		
		4	7	11	0	1	16	4.2	A		
		5	16	20	2	0	0	4.3	A		
	意欲的に課題解決を行うように工夫をし、達成後、さらに次のステップへの意欲を持たせる。(第2種電気工事士受験等)	元	10	18	3	0	5	4.1	A		
		2	9	10	2	3	12	3.8	B		
		3	14	12	1	1	7	4.3	A		
		4	9	9	0	1	16	4.3	A		
		5	19	19	0	0	0	4.5	A		
課 題 教 育	防災・安全教育	教員の防災教育に係わる指導力・実践力の向上	「生徒の命を守る」という教職員の意識と技術を高める。防災訓練を年2回行う。	元	19	15	1	0	1	4.5	A
				2	11	19	5	1	0	3.9	B
				3	18	14	1	0	2	4.5	A
				4	12	23	0	0	0	4.3	A
				5	19	15	4	0	0	4.3	A
	人権教育	確かな人権意識の育成	人権教育HRや生活体験発表会において、生徒の身近な問題から相互に尊重し合う態度を育てる。	元	7	23	6	0	0	3.9	B
				2	6	24	3	3	0	3.8	B
				3	14	18	2	0	1	4.3	A
				4	7	25	3	0	0	4.0	A
				5	11	25	2	0	0	4.2	A
	情報教育	情報モラルの育成	情報発信に伴う責任など、情報モラルを育成する。また、プライバシー保護や著作権尊重の重要性を考えさせる。	元	6	22	6	2	0	3.7	B
				2	7	24	4	1	0	3.9	B
				3	11	15	7	1	1	3.8	B
				4	8	20	7	0	0	3.8	B
				5	11	22	4	1	0	4.0	A
環境教育・福祉教育	環境・福祉体験活動等の推進	生徒の身近な問題から環境への関心を高め、より良い環境を創造するための実践力を育てる。	元	6	16	11	2	1	3.4	B	
			2	5	20	9	2	0	3.5	B	
			3	10	15	9	1	0	3.7	B	
			4	5	18	11	1	0	3.4	B	
			5	9	17	11	1	0	3.6	B	
交通安全教育	実践的な安全教育への取り組み	登下校・自転車・単車(125CC以下)の指導を実施し、自他の生命を尊重する意識を高める。	元	13	20	3	0	0	4.2	A	
			2	12	18	5	0	1	4.1	A	
			3	16	12	5	1	1	4.1	A	
			4	11	15	8	1	0	3.8	B	
			5	13	19	5	1	0	4.0	A	